

宮古市（岩手-A）における地域精神保健医療福祉システムの 再構築に向けた支援者支援に関する報告

研究分担者 伊藤順一郎¹⁾

研究協力者（主執筆者に○） ○安保寛明²⁾ 加藤伸二³⁾ 田代大吉⁴⁾ 小成祐介⁵⁾

- 1) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
- 2) 社会医療法人 智徳会 未来の風せいわ病院
- 3) 宮古圏域障がい者福祉推進ネット
- 4) 医療法人財団 正清会 三陸病院
- 5) 社団医療法人 新和会 宮古山口病院

要旨

宮古市は、人口が約6万人の都市であり岩手県沿岸の中心的都市である。精神保健福祉実施機関のうち病院や基幹的な役割をもつ福祉事業所は概ね機能を維持することができている。地域全体の様相の変化や震災後の地域化の取組みの変化などを受け、従前から地域精神保健医療福祉に関わる機関や事業所での取組みの強化など、地域化や専門化、ネットワーク化に向けたニーズが存在する。

そこで平成26年度は、当事者を中心とした普及啓発イベントや家族向け地域支援事業への協働、当事者も主体的に実践できるプログラム（WRAPクラス）や恋愛と結婚をテーマにした座談会の開催などを支援した。平成24～25年度に比して、沿岸地域の専門職者等が発案したアイデアを支援する形での支援者支援に変容した。

A. 研究地区の背景

1) 地域の概要

宮古市は、人口が約6万人の都市であり岩手県沿岸の中心的都市である。人口は岩手県沿岸部の市町村の中で最も多いが、県庁所在地である盛岡市からは北上山地を隔てて車で2時間という地勢的不利のため、人口も経済も減退傾向にある（表1）。また高齢人口比率も30%を超えている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により大きな被害を受けた。津波による人的被害としては、津波による家屋被害などによって震災後85ヶ所の避難所に8,889人が避難した。同年8月10日に指定避難所を全て閉鎖した。また、この震災による宮古市内の死者は407人、死亡認定者110名、合計517名であった。住宅家屋被害は、全壊5,958戸、半壊1,174戸、一部損壊

661戸、合計9,088戸¹⁾であった。応急仮設住宅が62ヶ所2,010戸建設され、60ヶ所1,713戸に対して3,883人が入居した。

なお、平成23年度版障害者白書によると、宮古市に住民票のある者で死亡した障害者数は36人であり、当時の障害者手帳所持者数3,371人の1.1%にあたる。なお死亡者のうち精神障害を有する者は7人であった²⁾。

2) 精神保健福祉医療実施機関の従事者のニーズ

平成24年8月に研究班によるインタビューが行われ、精神保健福祉医療に関わる従事者へのインタビュー調査が行われた。全体として、以下のニーズがあることが判明している。

- ・肯定的な感情を持てるようなサポート
- ・くつろぎや笑いの場の設定

- ・交流要素の強い、地域内の横のつながりを作れる場の設定

また、平成 24 年度、25 年度に実施された支援プログラムの中に WRAP (元気回復行動プラン) への参加とファシリテーター養成研修が複数あったことなどから、平成 26 年度には以下の要素を重視する必要があると予想された。

- ・当事者や一般市民にも参加しやすい機会を提供することによる、こころの元気について安心して取り扱うことのできる場をつくる
- ・家族や支援者など、方向的な役割を担いやすい立場の方々が相互性をもつような機会の提供 (例えば家族であれば、専門職者から支援や教育を受ける人という役割に限定されることなく、家族自身が主体的に家族や地域の支援に関われるようになること)

B. 支援者支援の概要

1) 当事者向けのワークショップの実施

宮古地域に住む当事者 (精神障害などを持つ方) が主体的に心の元気に取り組めるよう、「こころの元気サロン」と命名した WRAP (元気回復行動プラン) に関するワークショップの運営支援を行った。こころの元気サロンは 1 ヶ月に 1 回行い、1 回あたり 6~10 名程度の宮古地域の当事者やボランティアが参加している。盛岡地域からは 2・3 名程度のピアサポーターが参加して、こころの元気に関係しそうなことを話しあったり体験したりを行った。特に 9 月には、同じく釜石市で行っている「こころの元気サロン」と合同で開催するために大槌町鯨山近くの英国調庭園で開催し、盛岡・宮古・釜石の 3 地域に住む当事者や支援者が集まって交流を行った。

また、宮古圏域障がい者福祉推進ネットが主催した「リカバリー de 仮面座談会」を 2015 年 1 月 24 日に開催するにあたり、当事者で結婚経験をごく近い時期にもつ方を盛岡から派遣した。仮面座談会では、平成 25 年度の「しごと編」に

続いて平成 26 年度に「恋愛編」と題して、精神科への通院をしたり精神障害者手帳をもったりしながら人と関係を構築する際に起きやすい経験と考えについて話し合った。

2) リカバリーに関連するワークショップの実施

平成 24 年度、25 年度にリカバリーの概念を体験するワークショップとして「リカバリーミーティングいわて」を開催し宮古地域から専用シャトルバスを運行して当事者および支援者が参加しやすくしていた。これを踏まえて平成 26 年度には、日本精神障害者リハビリテーション学会 第 22 回いわて大会で公開企画 (ワークショップ) として、「わたしの希望するくらしー自分と周囲の元気に役立つ行動計画で、未来へ」と題して、盛岡、一関、宮古地域から演者が登場してファシリテーションを行った。

なお、平成 26 年度時点で宮古地域には 4 人の WRAP ファシリテーターが在籍している。

3) 支援者向け研修会の実施

宮古地域でのニーズの中には、ひきこもりや孤立などによって支援につながりにくい方がいることが判明してきていたため、平成 24~25 年度に精神障害者アウトリーチ推進事業で得た経験をもとにした研修会「精神的困難を抱えながらも支援につながりにくい方への支援に関する研修会」(表 2) を開催した。

この研修会は宮古圏域で行われ、医療や支援が行きとどかない人に対する支援について、リカバリー、ストレングス、地域重視などの主要な概念を事例とともに紹介した。参加者はおよそ 35 名であった。

C. 今後の課題と考察

宮古地域は、震災前後で医療機関や福祉事業所での被害があまり大きくなかった (いくつかのグループホームを除いては、建物や管理職者の喪失がなかった) ことなどから、地域精神保健福祉シ

システムの再構築に向けた支援では、ハード面の整備よりも、現在従事している地域精神保健福祉従事者や、現在は支援者と見なされていなかった方々に対する支援（ソフト面の整備支援）を行うことが望ましいと考えられた。

そこで、平成 26 年度は、当事者や家族が動機づけられ、当事者や家族、地域の一般市民が『支援を受ける人』という立場から『支援を相互に行う関係性を持つ人』への転換をすることを目指した支援を行った。具体的には、WRAP（元気回復行動プラン）のように当事者や家族にも開かれている、こころの元気に関するワークショップなどである。また、仮設住宅に住み続けているのが高齢者や障害者などの災害弱者であるケースが多いことから、訪問型の支援の重要性が高いことが予想されるため、支援につながりにくい事例への対応に関する研修会を実施した。

この研究事業で行われているフォーカスグループ・インタビュー調査から、今後期待されるテーマには地域移行（退院促進）、支援者の交流につながる機会、異業種（例えば、教育や司法）との協働等があり、地域精神保健福祉に限定されない支援が継続的に必要であると思われた。

惨事ストレスや医療福祉資源の偏りに関する問題はある程度解決されつつあるように見えるものの、宮古市田老地区などのように居住地域自体の景観や用途が大きく変わる地域では、習慣や景観に伴って存在したかもしれない土地への愛着の切り離しが行われていくことになるため、惨事ストレスとはまた異なる様相の精神保健問題が発生する可能性がある。

宮古市では人口規模が小さいため医療福祉の資源はあまり選択可能な状況にない。そのため、今後の宮古地域での精神保健福祉医療の質を高める方法のなかには、医療と福祉のネットワーク化と当事者の動機づけがあると思われる。WRAP クラスやアウトリーチ活動で重視されるリハビリ重視の考えを地域全体で共有することが有益であると考えられる。

D. 結論

2014 年度は、宮古地域に就業する精神保健福祉医療従事者のニーズに基づいたプログラムの実現や研修への派遣を行った。WRAP ファシリテーターが 3 年間で 4 人誕生するなど、リハビリに関して当事者の参加を促す内容になってきていると感じられている。

E. 健康危険情報 特になし

F. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

- 1) 小笠原隆, 藤澤俊行, 中嶋智恵子, 佐倉田隆, 安保寛明: 大会企画 (ワークショップ) ー私の希望する暮らしー自分と周囲の元気に役立つ行動計画で未来へ, 日本精神障害者リハビリテーション学会第 22 回いわて大会, 岩手, 2014.10.30-11.1

G. 知的所有権の所得状況 特になし

文献

- 1) 宮古市: 震災の状況と体制/被害状況. 宮古市公式ウェブサイト <http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-6543.html>
- 2) 内閣府: 東日本大震災における障害者の死亡率 (いくつかの県・市町から), 障害者白書 (平成 24 年度版), 41-42,2012

表 1 : 宮古市（に該当する地域）の人口の推移

年	人口	
1970年	79,805人	
1975年	79,214人	
1980年	78,617人	
1985年	77,024人	
1990年	72,538人	
1995年	69,587人	
2000年	66,986人	
2005年	63,588人	
2010年	59,442人	
2012年	57,136人	*住民基本台帳による推計。
2014年	56,854人	*住民基本台帳による推計。

2012、2014年以外は、総務省統計局 / 国勢調査による。

表 2 : 精神的困難を抱えながらも支援につながりにくい方への支援に関する研修会（宮古圏域）

平成 27 年 1 月 23 日(金) 17 時 10 分 ~18 時 20 分

時間	内容
16:40	受付開始
17:10	開会
17:10-17:30	情報提供 「精神的困難と抱えながらも支援につながりにくい方への支援とチームづくり」 情報提供者 安保寛明 (未来の風せいわ病院 これからの暮らし支援部)
17:30-17:50	事例紹介（ビデオ「伊藤順一郎 アウトリーチ論」DISC1） 平成 24～25 年度厚生労働省アウトリーチ推進事業で支援し、医療中断から医療の再開へつながった方の事例を紹介
17:50-18:10	情報提供 「事例を通じた支援の実際とチームづくりの工夫」 情報提供者 今川亮介 安保寛明
18:10-18:18	質疑応答
18:18-20	閉会（アンケートへの記入を依頼）

